

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.71

2020年2月20日
発行

発行人：原田正樹 編集委員：佐藤 陽 秋貞由美子 熊谷紀良
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番27号 ロリ工市ヶ谷3階
TEL.03-5227-7101 FAX.03-5227-7102 Eメール jimukyoku@jaass.jp

「第25回 北海道大会」を開催して

大会副実行委員長 岡田直人（北星学園大学社会福祉学部）



「未来へつなぐ、みんなでつなぐ ～多文化共生社会を育む福祉教育とボランティア学習～」をテーマに、北星学園大学（札幌市）を会場として、2019年11月23日（土）・24日（日）に北海道大会が開催されました。直前まで寒く天候の悪い日が続きましたが、両日共に暖かい天候に恵まれました。大会参加者は、2日間で延べ450人でした。道外からも多数のご参加をいただき、この場をお借りして、みなさまに感謝申し上げます。

さて、北海道大会を開催するに当たり、早くから学会原田会長や理事のみなさまに札幌までお越しいただき、大会に向けて気運を盛り上げてくださったことに感謝申し上げます。実行委員会は、北海道内市町村社協の元職・現職者、小中学校教員、施設職員と大学教員を中心に構成され、基調講演、シンポジウム、特別課題研究（北海道企画）の4分科会の内容について検討を重ねてきました。おのずと北海道の地域特性や抱える課題について、形にできないかと議論されました。その結果をプログラムとして、具体化することができました。北海道はごちゃまぜの人々によって地域社会が成り立っていますが、その先住者としてアイヌ民族の人々にフォーカスしたものが基調講演「アイヌ文化からみる多文化共生社会の創造」でした。講師はアイヌ研究の第一人者の本田優子氏（札幌大学教授）でした。アイヌが暮らしで大切にしてきたものの考え方に、現代社会に活かせるヒントが秘められていると感じました。また、ハワイ語やマオリ語の現地での取り組みに刺激を受けたアイヌ語復興の取り組みには心動かされるものがありました。そんな取り組みの一つが、開会式前の歓迎セレモニーで札幌大学ウレシパクラブの学生たちが、披露してくれたアイヌ語での民族舞踊でした。

シンポジウム「共生社会をどう創出するか～異なる者との出会いと葛藤～」では、優れた実践報告を単に拝聴するだけでなく、学術的な切り込みがあり、刺激的なセッションとなりました。学会総会の後には、オール北海道の食材と酒の情報交換会（参加130名）が行われ、次回大会の挨拶では、大阪チームの士気の高さが伝わってきました。こうして、第1日目は終わりました。

第2日目は、午前自由研究発表39題（うち、ポスター発表10題）が8分科会で行われました。午後には課題別研究が7分科会で行われました。特に課題別研究では、分科会毎に会場内の机の配置を変更して、世話人や報告者、指定討論者、コーディネーターの下で多様な形式の討議があり、それぞれ有意義な時間を共有していただけたようでした。

最後に、ボランティアで参加してくださった登別市社協と豊浦町社協のみなさま、日本福祉大学と北星学園大学の学生さんたちに感謝申し上げます。ありがとうございました。